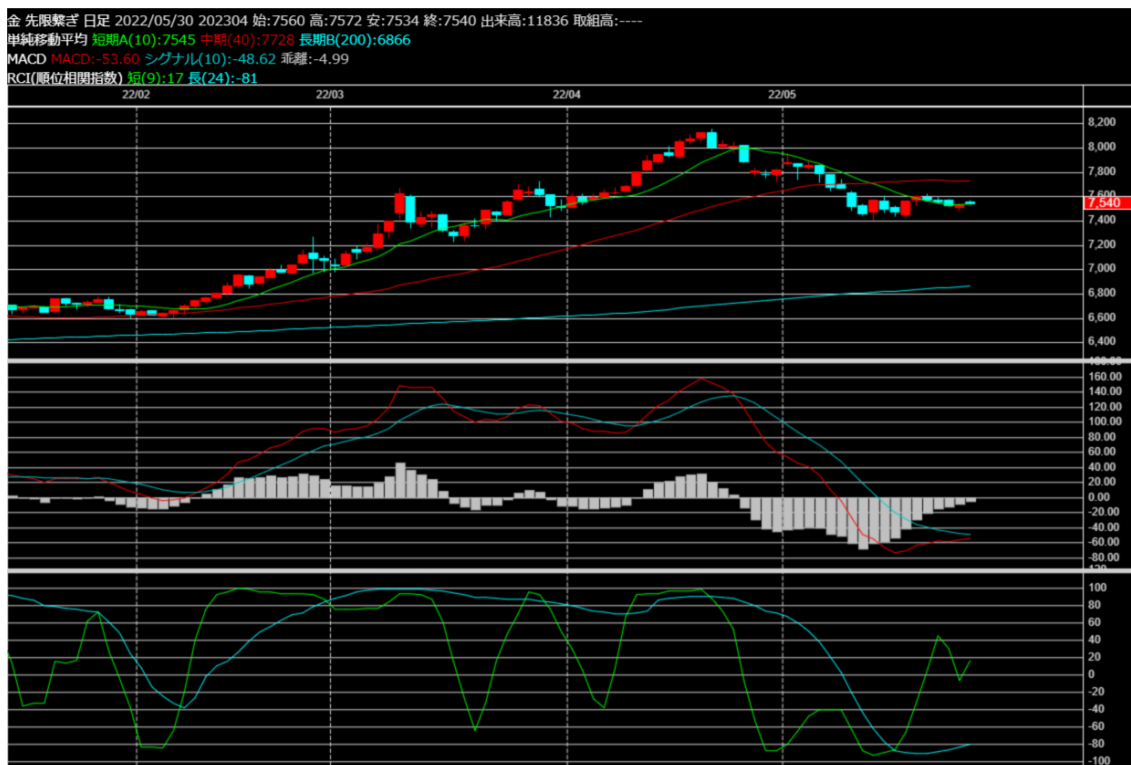


<金標準先物、7400 円へ向けた戻り売り基調・・・>



(出所：オアシス)

週末に発表された今後のインフレを占う上で重要視されている個人消費支出（PCE）の発表が行われ、前月の0.5%の上方修正を上回る0.7%となり、物価圧力が根強い事を示している。しかしFRBがインフレ目標の基準値としているPCE総合価格指数は、前月比0.2%上昇したが前月0.9%の上昇から低下し、前年同月比でも6.3%の上昇を示したが、前月の6.6%の上昇から低下するなどインフレの落ち着きを示している。またFOMC議事録では、6月、7月の0.5%の利上げをメンバーの多数が賛成し、バランスシート削減も6月から開始する状況である。

そのためインフレ指標の落ち着きに、金利引き上げの動きが示されており、アナリストの間ではインフレ高の中で景気低迷が重なるスタグフレーション入りを懸念する声も聞かれている。特に金利を生まない金は金利高が先行する中で、景気減速のリスク逃避でドル安：円高が進むなど、金標準先物にとっては戻り売り基調が続く環境下であり、目先7600円以上の戻りは売り狙いが妥当に思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDではMACDが切り上げながら、シグナルは切り下げるなど、基調の転換を示すクロスが発生し易い。またRCIでは短期が下げ止まり、長期は切り上げだすなど下げ渋る動きに思える。そのため目先40日移動平均線へ向けた戻りが優先され7600円へ向けた戻りが予想される。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 908,800 円(2022 年 5 月 30 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 5 月 30 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>